



Title	北海道十勝地方からマルミノウルシを記録する
Author(s)	持田, 誠; 池田, 守; 池田, 順子
Citation	浦幌町立博物館紀要, 19, 13-15
Issue Date	2019-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73887
Type	journal article
File Information	Bull. of the Historical Museum of Urahoro19_13-15.pdf



北海道十勝地方からマルミノウルシを記録する

持田 誠¹⁾・池田 守²⁾・池田順子²⁾

Makoto MOCHIDA, Mamoru IKEDA & Junko IKEDA, 2019. New Record of *Euphorbia ebracteolata* (Euphorbiaceae)
in Tokachi Region, Hokkaido.
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 19: 13-15.

摘 要

十勝地方の豊頃町で、トウダイグサ科のマルミノウルシの自生を確認した。本種は北海道では胆振・日高および石狩地方から分布が知られているほか、北見地方からも記録がある。しかし、十勝地方など道東での分布は知られていない。本種の新産地として報告する。

マルミノウルシ

マルミノウルシ *Euphorbia ebracteolata* Hayata は、トウダイグサ科トウダイグサ属の多年生草本である。肥大する根茎を持ち、秋季に越冬芽を形成して、早春に地上茎（シュート）を伸長して、杯状花序により開花・結実する。果実は乾燥すると裂開して種子をはじき飛ばすほか、地上に落ちた種子はエライオソームによる昆虫散布をおこなう。シュートは、初夏には融けるように消失することから、春植物の一種と考えられている。

マルミノウルシの分布は、日本、中国中部、朝鮮半島とされる。このうち日本での分布は北海道、東北地方と中部地方が中心だが、三重県藤原岳の石灰岩地帯、香川県屋島は、他の自生地からかなり離れた地点にある隔離分布で知られている（吉田 2004、黒沢 2016）。

北海道内では、これまで道央圏の胆振、日高および石狩地方での自生地が記録されている。滝田（2001）は「北海道の自生地は少ない」と記しているが、これは分布域が限られている事を示しており、分布域内では比較的高密度に自生していることから、黒沢（2016）は「北海道には比較的多い」と述べている。

道内の分布で特筆すべきは、飛び地的に北見地方の置戸町で記録があることである。北海道大学総合博物



図1 マルミノウルシ *Euphorbia ebracteolata* Hayata。今回みつけた豊頃町の自生地にて、2018 年 5 月 1 日に撮影。

館や北網圏北見文化センターに標本が収蔵されている。しかし現在、この自生地は消失しており、このほかに日高山脈の東部での自生地は知られていなかったことから、本種の日本における現状分布は、石狩低地帯および日高山脈西部一帯が北限産地とされてきた。

今回、十勝地方の豊頃町から分布が自生が確認されたことから、かつて記録のある置戸町までの間、具体的には日高山脈東部から白糠丘陵にかけて、ほかにも自生地が存在する可能性も考えられる。

なお、このように、分布域が偏在している傾向にあることから、環境省のレッドデータリスト 2018 では

1) 浦幌町立博物館 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町 16

2) 〒089-5309 北海道中川郡豊頃町字二宮



図2 マルミノウルシ *Euphorbia ebracteolata* Hayata の自生が新たに確認された北海道中川郡豊頃町の位置。



図3 豊頃町からみつかったマルミノウルシ *Euphorbia ebracteolata* Hayata 自生地の様子。丘陵地斜面の下部で、落葉広葉樹二次林の林床から林縁にかけて個体群が広がる。開花期の4月下旬から5月上旬は、まだ他の草本が芽出しの時期で、ササ類の密度も低いため、マルミノウルシの純群落にみえる。写真は5月1日の様子で、マルミノウルシが結実をしはじめている一方、他種の伸長・展葉が急速に進んでいる。

準絶滅危惧種 (NT) に指定されているのに対し、地域版レッドリストでは各地域の分布状況に応じて、北海道、青森県、宮城県、岩手県が絶滅危惧Ⅱ類、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、長野県、三重県が絶滅危惧Ⅰ類、滋賀県が「分布上重要な種」に指定している。

このように、本種は絶滅危惧種として自生地情報の取扱に注意を要するため、本稿では自生地の位置について詳細を記載しなかった。

新産地の状況

今回確認された自生地は、十勝地方の十勝川下流部右岸に位置する、中川郡豊頃町の山林である (図1)。地理的には豊頃丘陵に属する丘陵地帯で、一帯は道有林および社有林として管理されている。

マルミノウルシは、丘陵地斜面下部の林縁域に集中して自生している。これは、丘陵地の斜面上方は針葉樹植林地として開発されているためで、植林を逃れた斜面下部の落葉広葉樹林にマルミノウルシ個体群が残存しているものと推察される。自生地の標高は、およそ 70-200m の範囲に広がる。

開花期は4月下旬から5月上旬で、5月中旬には結実する。シュート長は開花最盛期で 30-50cm 程度の個体が多い。分布の範囲は広く、一帯の約 5km 四方の範囲に、不連続に集団が分布していた。

本種が多く自生する日高地方・胆振地方の自生地には、かつて馬の林間放牧が盛んに実施されており、その影響で林床のササ類の密度が低く抑制されている場所がある (高橋・佐藤 2001)。豊頃町の自生地もマルミノウルシ集団の周辺はササ密度が低いことから、放牧などかつての土地利用の状況について確認する必要がある。

2018年4月に共著者の池田がトウダイグサ科の草本が自生していることを発見し、マルミノウルシではないかと推察して博物館へ連絡。その後、博物館で現地を調査して同定と標本採集を実施した。その後、主要な土地管理者である北海道十勝総合振興局森林室に本種の自生情報について提供した。

採集標本は、浦幌町立博物館収蔵庫 (URAH) に収蔵する。重複標本を北海道大学総合博物館陸上植物標本庫 (SAPS) と福島大学標本庫 (FKSE) に収蔵する。

本種の道内における自生状況について、若原正博氏、さっぽろ自然調査館の丹羽真一氏、福島大学の黒沢高秀氏に情報提供を頂いた。深く感謝したい。

証拠標本

マルミノウルシ *Euphorbia ebracteolata* Hayata
#MOCHIDA 2018-0001: 北海道中川郡豊頃町。採集年月日: 2018年5月1日。採集者: 持田誠。
Japan, Hokkaido; Nakagawa-gun, Toyokoro-cho.

May.1,2018. Coll.: Makoto MOCHIDA / #MOCHIDA
2018-0002 : 北海道中川郡豊頃町. 採集年月日 : 2018
年 5 月 1 日. 採集者 : 持田 誠. Japan,Hokkaido;
Nakagawa-gun, Toyokoro-cho. May.1,2018. Coll.:
Makoto MOCHIDA.

引用文献

- 吉田繁, 2004. 岩手県におけるマルミノウルシの新
産地. 分類 **4**(1): 75-76.
- 高橋英樹・佐藤利幸, 2001. 北海道大学農学部附属
牧場の維管束植物相. 北海道大学農学部牧場研
究報告 (18), 33-122.
- 滝田謙讓, 2001. 北海道植物図譜, 529. 自費出版.
- 黒沢高秀, 2016. トウダイグサ科. 大橋広好ほか編,
『日本の野生植物』3, 147-166. 平凡社, 東京.

